

Title	<紹介> 『ドイツにおける都市史研究の現状：組織・テーマ・方法：E. エンネン』(立教大学国際学術交流報告書第一輯)
Author(s)	服部, 良久
Citation	史林 = THE SHIRIN or the JOURNAL OF HISTORY (1980), 63(3): 490-491
Issue Date	1980-05-01
URL	<a href="https://doi.org/10.14989/shirin_63_490">https://doi.org/10.14989/shirin_63_490</a>
Right	
Type	Journal Article
Textversion	publisher

(B5判 二二六頁 図版六丁 一九七九年十一月 木簡学会 三〇〇〇円)  
(橋本義則 京都大学大学院生)

## 『ドイツにおける都市史研究の現状——組織・テーマ・方法——』

E・エンネン (立教大学国際学術交流報告書第一輯)

本書は一九七八年四月八日、立教大学国際学術交流資金による第一回のプロジェクトとして同大学で行なわれた国際学術交流に関する報告書である。近年、国際的な学術交流が様々な専門分野において活況を呈していることは周知のとおりであるが、これと外国史研究の領域に限れば、種々の障害のゆえに必ずしも充分な機会が与えられてきたとは言えない。こうした中で立教大学は従来より国際交流を重視し、また多大の成果を挙げてきたのだが、此度その成果を公にするための学術交流報告書の刊行資金が設けられるに至り、その第一輯としてとりあげられたのが、ドイツ中世都市研究の碩学エンネン教授を招いての学術交流に関

する報告である。この場をもつに際しての主な労をもとられた鶴川馨氏によって編集された本報告書には、エンネン教授の報告のみならず、これに続いて行なわれた討論もまた収められており、日独研究者の文字通りの交流が広く学界の財産として共有されることを可能にした点においてきわめて貴重なものである。

本報告書のタイトルとなったエンネン教授の報告については、既に『西洋史学』第一一〇号に魚住昌良氏による訳稿が掲載されているので、若干のコメントを記すに留めたい。教授の報告は積極的に自論を展開することよりも、学界の現状を適確に把握することに意を用いている。しかしこうした学界動向の展望からおのずと浮かびあがってくる現在の都市史研究の方向性は、エンネン教授自身の都市史研究の方法及び課題とほぼ一致していると言えよう。方向性と言うにはあまりに多様であるかもしれない。にも拘らず本報告において中世都市成立史に関する近年の研究動向として、古代から中世への都市の連続において教会組織の果たした役割及びこれと結合した在地的な手工業の存続の重視、プラーニッツ的ヴ

イク概念の批判、都市共同体形成における多様な要因の考察(フランクの参審員団体、フランスの平和運動及び南西ヨーロッパの宣誓共同体運動の影響)等々が指摘されるべき、それは同時にエンネン都市史学の基軸をなしてきた緩やかなひとつの方向性をも表現しているのである。これら他、都市概念の多様化、時期的、地域的な限定下でのその再構成の必要性、中世後期の都市の人口史的、社会的な問題への論及が興味深い。欲を言えば、都市とヘルンヤフ(Minderstadt) についても触れられるべきであった。

都市史研究者及び多くの西洋中世研究者をも含む参加者とエンネン教授の間で行なわれた質疑応答は多岐に亘っている。その中で教授は、複合的な基準 Kriterien-bündel によって都市概念を地域毎に規定する場合、具体的にはまず外観(フアン)、内部の社会経済的構造、中心的機能 Zentralität の三つを指標とすべきことを説いている。都市の中心的機能は歴史地理学、経済地理学の成果を容れ、都市史においても最近頃に重視されつつあるテーマであり、一

指標というよりは、都市と農村、都市と領域支配権力、都市経済圏、人口流入などの問題をも包括する点において、都市を総合的に把握する重要な視点を提供するものと思われる。教授に対する質問はさらに、自然成長都市と建設都市の類型概念の有効性、ライン地方における三圃農法の始期、比較都市史研究の意義、burgens, burgの用語法、語義の変遷、司教都市領主制の成立過程、都市とマルクトの区別、中世初期の従属的手工業者と後の自由な手工業者の関係、都市の成立と荘園制の変質の関連性等に及んでいるが、ここに教授の応答を逐一記すことはできない。ただ、右記の最後の問題に関するエンネン教授の説明による限りでは、都市経済の浸透が荘園制を変質せしめてゆくという観点が強く、荘園経済の変質の中から都市経済の基盤をなす商品、貨幣流通が展開するという構想は希薄であり、まして古典荘園経済の中に中世初期における都市の存続を支えた一定の商品、貨幣流通があったとする最近のベルギー史学界の如き動向は容れられていないように思われる。この意味でエンネン教授も都市と農村を対置することから両者の関係の考察を進めて

ゆくドイツ史学の伝統を継承していると言つてよい。

討論が特定の論点に集中せず、単発式の質疑応答に終始したのは惜しまれるが、参加者の問題意識の多様性からすればこれもやむなきところであり、本格的なシンポジウムを計画することもエンネン教授の日程上おそらく可能ではなかった。寧ろここでは、かかるかたちで学術交流の成果を広く学界に公にされた立教大学関係者の方々の労を多とすべきであらう。

(B6判 六五頁 一九七九年六月 立教大学 非売品)  
(服部良久 天理大学講師)

### 受贈図書

(一九七九年七月五日〜十月十一日)

経済経営論集(龍谷大学経済経営学会)

一八一四、一九一一

平城宮整備調査報告(奈良国立文化財研究所)

所一

東大寺文書目録(奈良国立文化財研究所)一

人文自然科学論集(東京経済大学)五〇、

五一

深沢家文書目録(追加)(東京経済大学)  
千葉家文書目録(東京経済大学)

内山家文書目録(東京経済大学)

小島家文書目録(東京経済大学)

Carl Steensrup, *Højst Shigetohi* (1198-1267) (Scandinavian Institute of Asian

Studies)

中国史研究(中国社会科学院歴史研究所)

一九七九年一期、二期、三期

国史談話会雑誌(東北大学文学部)二〇

人文論叢(福岡大学研究所)一一一

国際学術交流報告書(立教大学)一

日本学史院紀要 三六一

政治経済史学 一五二―一五六

立正大学文学部論叢 六四

北見郷土博物館紀要 九

羽曳野史 四

日本常民文化紀要(成城大学大学院文学研

究科)五

福岡大学研究所報 四一、四二、四三

人類学雑誌(日本人類学会)八七―二

内陸地域産業・文化の総合的研究(信州大

学人文学部 経済学部)

和歌山市史 八

富山大学人文学部紀要 一九七八年二号